

きほくのまち人探訪

「表現豊かな牛鬼を長年制作」



児玉 正則 さん

30年ほど前から大きいものや小さいものなどさまざまな牛鬼を制作し続けている児玉正則さん。牛鬼作りを始めたきっかけは、近永公民館が企画した牛鬼を作る講座に参加したことでした。この講座では、牛鬼以外に鹿と獅子の頭も作りましたが、顔の色や髭の色を変えることで多様な表現ができる牛鬼に魅力を感じたそうです。

児玉さんは、これまで街角ギャラリー「なんでも館」、銀行や店舗などで、展示会を開催。今年9月にはアエレルきほくで「牛鬼頭展」を開催しました。今回の「牛鬼頭展」では、初めて小

い牛鬼を中心にした展示を実施。見に来た人たちから「かわいい」「小さい牛鬼なので気軽に飾れる」など大きい牛鬼の展示会のときとは違った感想を聞くことができたといふ児玉さんは微笑みます。

「長い間牛鬼作りを続けてこれたのは自分のペースを大事してきたから」と話す児玉さん。作業に没頭するときもあれば、ときには趣味の山野草の手入れなどに集中することもあるそうです。児玉さんは「これからも表現の仕方に力を入れて、多様な牛鬼を作り続けたい」と意欲的に話していました。

ALTの鬼の里Diary ~Chrisdelle編~

「Enjoy seasonal ingredients」



私は、旬の食材について学んでいます。日本では、旬の食材を大切にする文化があり、お菓子里にまで取り入れられていることに驚きました。例えば私の好きなお菓子である「キットカット」。最近、栗味のキットカットを購入しました。アメリカには季節の味の「キットカット」がないので、日本にいる間にもっといろいろな味を試したいと思っています。

アメリカにももちろん旬の食材があります。今の時期だと、家族とよくリンゴ狩りに行っていました。そして、秋に人気なのがパンプキンスパイスラ

テ。カボチャのピューレとシナモンやしょうがなどのスパイスで作られる飲み物です。アメリカ人は、カボチャと言えばハロウィンに飾る大きなオレンジ色のカボチャを想像します。日本ではなじみがあるのは食用の緑色のカボチャですね。今度そのカボチャを使ったコロケの作り方を教えてもらう予定です。

冬が近づくにつれ、だんだんと寒くなってきました。これからの季節、こたつで日本語の勉強をしながら、たくさんのみかんを食べるのが私の楽しみです。

地域おこし協力隊活動日記

「新鮮な日々を過ごしています」

地域おこし協力隊1年目

あわの まさおみ
栗野 正臣



こんにちは。協力隊の栗野です。

6月中旬に鬼北町へ移住し、あっという間に3カ月が過ぎました。自然環境とのどかな雰囲気毎日元気ももらっています。鬼北町へ来てから多くの方と知り合いました。これほど人と繋がりを持ったのは初めてで、新鮮な感覚です。あらためて「地域おこし協力隊」という立場を自覚するとともに、このご縁を大切にしていきたいと思えます。

協力隊の活動としては、鬼北町の伝統工芸品である「泉貨紙」の保存・普及活動を中心に動いています。現在は

勉強中心ですが、少しずつ学んだことをアウトプットし、泉貨紙の魅力を伝えていけるようになりたいです。

また、地域団体「日吉一希を起こす会」にも入会させていただき、さっそく会員の方々と一緒に活動しています。さまざまな地域活動にもできる限り参加しながら、鬼北町ならではの生活を楽しまたいと思います。

